2016.10.23　2016ひろしま自治体学校

感想文

・心地よい感動を覚えています。

　渡辺先生のお話はついこの1年半の出来事でしたが、歴史ドラマを見ているようにお聞きしました。

　参議院選挙の結果をどう見るか?というのはなかなか胸に落ちない部分がありましたが、今日の講演で、すっきりした思いがします。

　二つの側面をしっかりつかむことが大切ですね。

・午後からは他用があり失礼します。

　東区役所の現職の塩見信彦さんのご報告は、とりわけ高齢者の生活実態をその現実に対応する職員のそのご苦労が、ビビッと伝わりとてもよかった。

　こういう集会でご報告をされるについては、不断のご活躍に加えて、当局からの圧力もあるのかと推測されるが、ご報告をいただき、誠意と勇気に感動しています。

・1.衆議院選挙は目前（1月）とも思えるが、全国的な野党共闘はどのように推進されているのでしょうか。

　　各地の取り組みと広島について教えてください。

　　共産党が候補を下せば60以上ということでいいのか。

2.広島は参議院選挙で2人区ということもあり、野党共闘がきっかけすらなかった。衆院選小選挙区で野党共闘への共同を作り出すとは、何がポイントか、広島は連合・民進が自民党と結びついており、原水禁運動の分裂以来社民党と共産党は話も出来ない。戦争ストップ実行委員会等はどのような役割を果すべきか、今は絶望的な状況に見えますが、これを打開するにはどうするか。まあ広島の運動サイドの問題でありますが、早急に議論をすべきだと思います。

・貧困の撲滅をみんなが力を合わせてやらなければと思っています。

・野党共闘をさらに進化させ、安倍政権を打倒することの重要性をしっかりさせていただきました。私は地域の革新懇運動にもかかわっていますが、その為のヒントとして、暮らしの料理と平和の料理の2つを提示して共同の輪を広げる努力をしてゆきたいと思います。

・渡辺先生の講演を直接聞くことができたのは初めてでした。大変面白かったです。大学の集中講義のように朝から夕方まで、1週間ぐらい聴いていたいと思いました。

　本日の講義テーマは「安倍政権の段階」ということでしたが、そもそも安倍晋三という人が何をめざしているかということについて、渡辺先生のご見解を聞いてみたいと思いました。「復古主義」という側面と、「アメリカ依存」という側面は矛盾するような感じがするのですが、どう共存しているのでしょうか。

・これまでも渡辺治さんの発言や本を関心を持って読んでいました。明快で展望を示してくれていたからで、一度直接お話を聞いてみたいと思いました。今日聞いた理論だけではなく熱い実践家としての側面を知ることができて、今後も一つのよりどことして勉強していこうと思いました。

　（広島自治研に対して）

　　あまりにも教育、義務教育の諸条件に地域格差がでていることに問題意識を感じています。そのようなアプローチが必要だと思うのですが。

・渡辺先生のお話は分かりやすく解説していただけるとの評判通りで、共同行動がどうして足踏み状態になるのか不思議でしたが、今日よくわかりました。

・地域の問題や要求・要請の集約や行動をすることの大切さが講演の中でお話がされました。

　私もいつもこのことを問題にしています。しかし、集約をする、集中する団体または個人が「わかるよう」また

①地域の要求・要請を発表する

②“　　　　　　　の行動をする

③「対」交渉をする

④交渉の発表をする

⑤再度交渉や要求の再行動をする

⑥ニュースや「集い」行動。署名もやるべきでは

暮れの共同を『軍事費』と「大企業のためこみ」を国民に回せ行動を！

・戦争法の共闘の力になっているーーあのとき（3・11の時）の国民の一体感が薄れていると感じていましたが、自分たちが、いつもそこに立ち帰って運動をすすめることが大切と思えた。　野党共闘についてよく見えたと思います。

・くらしを共闘の糧に加えることは大変重要だと思っています。

　自衛隊の海外派遣の問題として、憲法との関係、戦死者を出させないこと、を強調していますが、国民の中には自衛隊という職業を選んだのだから当然と考える人も多いのではないか。アメリカの使い走りをさせられる、不公平さも強調しないといけないと思います。

・共同の大切さが具体的な内容を示され理解が深められました。

　特に最後に課題として提示された「平和」と「くらし」の両方を重視することが、自分の要求でもあります。自分の思いとぴったりしました。

・11月号全労連で、渡辺氏論文を読んでいたので、講演内容がよく理解できた。

　しかし、安倍首相の重点課題である「働き方改革」が言及なかったのは残念です。

　労働者にとって生活の「かて」である働き方が大きく変わることは　くらしにとって重大問題であると考えます。